

かげともの道

「古代山陽道で山の陽(南)を影面(かげとも)という山の陰(北)を背面(そとも)という」と日本書紀にあるそうです。

観音地区の所々に幅1メートルにも満たないこの道が今も残っています。古代の人々は、瀬戸の海の輝きや美しい島影を眺めながら、この道を旅したことでしょう。

アスファルトで舗装されたところもあれば、当時の石積みそのまま草に埋もれる道もあります。ぜひ、歩いてみたい道です。(⑪の地図参照)



お茶堂

坪井の長福寺の前の細い道はかげともの道です。今は、舗装されています。この道の上側にお茶堂があったといわれ、今もその井戸は、残っています。旅人は、このお茶堂で一休みし、眼前に広がる海や島々を眺めながらのどをうるおし、旅の疲れを癒したことでしょう。ここからの眺めは、絶景です。



長福寺

1602年極楽寺の下寺として僧宗源が開きましたが、その後無住寺となり明治元年には廃寺となりました。その後浄土真宗門徒によるお寺再興への熱意で真言宗から浄土真宗に改宗し坪井説教所を開きましたが、再び無住寺となりました。昭和23(1948)年石田更精氏が入り今に至っています。400年の間、無住寺を繰り返し廃寺にまでなったこの寺は、みんなの力で再興されたのです。今やっとこの寺に平穩が訪れていることでしょう。



仁助法親王宝 きょう印塔

ニンニョは、任助と書きますが、なぜかここでは、仁助となっています。高さが、3.75メートルあるお墓です。

仁助法親王(にんにょほうしんのう)は、15歳で出家し、晩年、九州への旅の途中宮島の大聖院に立ち寄り、西方院で天正12(1584)年になくなりました。三宅の美しい風景を好まれ、遺言により円明寺境内にお墓を建てられたと伝えられています。



円明寺

弘法大使が極楽寺へ来られた頃(810年~823年)創建されました。かつては、七堂伽藍を整え末寺を15坊を持つ西国一の寺といわれました。天正15(1587)年火事で焼け、後に福島正則の「慶長検地」で寺領没収され、明治の初めには廃寺となりました。由緒あるお寺も災害と時代の波にさらされ、しだいに荒廃していったのです。

その後、地域の人々によって再建されました。



広島市重要有形文化財

延命寺

明治元年に開かれました。何百年の歴史をもつ寺の多いこの五日市観音地区の中では新しい寺です。住持西光礼譲は、白木町の大土山の岩窟にこもり3年の修行をつんだそうです。その終行の岩場には今も礼譲が「南無阿弥陀仏」と刻んだ名号岩が残っています。



武内神社

三宅村の氏神で、明治43(1910)年に坪井の四宝神社(①参照)に合祀され、今は神社跡地に石碑が建てられています。



源範頼の 五輪塔

源頼朝(よりとも)の弟範頼(のりより)は、伊豆で兄に殺されました。が、一方、頼朝から逃れ、瀬戸内海を渡って九州へ向かっていた途中このあたりの海で亡くなり後に五輪塔がこの地に建てられたと伝えられています。

喜生園の北側の山中にうっすらと苔むした立派な五輪塔があります。五つの石は、地・水・火・風・空でなり、各々四角形・三角形・半月形・団形で表しています。この塔は、火・風の部が一つの石で作られています。

